

足立区議会議長 伊藤 のぶゆき 様

足立区議会議員 42番 かねだ 正 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	I 西新井のにぎわいを創出するまちづくりについて 令和8年は、足立区最大の観光資源である西新井大師が開創1200年の節目を迎える記念すべき年である。西新井大師周辺では、さまざまな記念イベントが企画され盛り上がりを見せているが、一方で、西新井駅周辺を含めた当該地区のまちづくりは、私が以前から指摘しているように、まだまだ道半ばといった感じを受ける。関係者や事業の数が多いという西新井の事情は理解できるが、着実にまちづくりを進めていかなければならない。 そうした中、西新井駅東口では、先月8月6日に東京都から西新井公園の都市計画事業認可を取得した。これにより東口では、長年未整備であった補助255号線や西新井公園という道路・公園の都市基盤整備が本格的に動き出した。まちづくり構想で掲げたまちの将来像「みどり豊かでにぎわいのある災害に強いまち」の実現に向け、新しい道路と公園を出発点としたまちづくりを進めてほしい。 また、西新井駅西口では、駅前交通広場整備、駅舎改修、再開発やホテル建設の計画など、さまざまな動きがある。区は、こうした今後の変化を見据え、「(仮称)西新井駅西口駅前ビジョン」の策定を進めている。区民意向はもちろん、東武鉄道や再開発準備組合などの関係者と連携して、地域の課題や求められる将来像を整理してほしい。時間はかかるかもしれないが、着実に、また一日でも早く地域住民がまちづくりの効果を実感できるよう努力してもらいたく、以下、質問する。
1 都市建設行政	1 西新井駅西口のまちづくりに関するアンケートについて 西新井駅西口駅前ビジョンの策定に向け、区は令和8年6月にアンケートを取った。まちの資源や課題を抽出する大事なアンケートであ
	9月8日 午前・午後 9時00分受付 質問時間 20分

	4 2 番 かねだ 正
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	る。駅前の将来像に関する意見が多くあったと思われるが、このアンケートに関連して、以下、質問する。 (1) アンケートの回答数では、オープンハウス型、WEB形式、併せて469件の回答があったと報告を受けた。この回答数について、まちづくりの意見を反映していると区は考えているのか、改めて、区の見解を伺う。 (2) 西新井駅西口駅前の「もっとこうなったらいい」と感じるのはどんなところですか、という問いに対して、どの年代でも、「歩きやすい歩行空間の整備」を求める回答が上位にきていた。区は、この結果について、どのように考えているのか。また、この結果を受け、何か検討したり改善したりするべきことはあるのか、併せて区の考えを伺う。 2 西新井駅西口のペDESTリアンデッキの設置について 西新井駅西口の仮設エレベーターが現在の位置に変更されるまでは、パサージュ前の横断歩道は歩行者とバスの錯綜があり、バスの定時運行と歩行者の安全確保が課題となっていた。階段の位置が元に戻った場合には、この課題が再燃することが当然、予想される。 現在、足立区、東武鉄道、再開発準備組合がこの課題を共有しながら、計画を検討し、関係所管と協議を進めていると認識しているが、将来の人や車両の変化に対応し、駅前において人と車のそれぞれの安全や利便性を確保するための選択肢の一つに、ペDESTリアンデッキがある事を、これまで何度も指摘してきた。 ペDESTリアンデッキのメリット、デメリットを把握し、将来にわたって持続可能で、かつ、区民の皆様にとって利便性の高い駅前空間となるよう計画するべきであるという視点にたって、以下、質問する。 (1) 先に質問した通り、西新井駅西口の再開発の将来像に関する大事な意見をもらうアンケートを区は実施した。アンケートは、ただ実施しただけでは、全く意味がない。区は、このアンケートを西新井駅西口の再開発に、どのように活かしていこうと考えているのか、区の考えを伺う。また、どのようなスケジュールで再開発を進めていく予定なのか、具体的なスケジュールを示して欲しい。 (2) 区は、ペDESTリアンデッキの設置に向け、西新井駅西口南地

	4 2 番 かねだ 正
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	区市街地再開発準備組合とはどのような協議をしているのか、具体的に示して欲しい。 (3) 区は、ペDESTリアンデッキが設置された場合のメリットとデメリットをどのように認識しているのか、改めて伺う。 (4) ペDESTリアンデッキの設置に向け、以前、区は、「課題を整理している」と答弁している。課題の整理は進んでいるのか。また、どのような課題があると認識しているのか、併せて区の見解を伺う。 3 宿泊施設の東横 I N Nができることによる影響について 8月上旬に西新井駅西口のデイリーヤマザキがあった場所に東横 I N Nの建設計画が明らかになった。住民説明会の資料によると客室は全220室と大規模なホテル計画である。 実現すれば、綾瀬のアパホテル170室を上回る区内最大のホテルとなり、まちへのインパクトは相当なものになると考える。そこで、以下、質問する。 (1) 今回、西新井駅西口に、どのような経緯で東横 I N Nが計画されたのか、伺う。 (2) 東横 I N Nの建設に関しては、地域の皆様も大変関心が高いと思われる。今回のホテル建設計画を、区として、地域活性化の観点を含め、どのように捉えているのか、区の見解を伺う。 4 西新井のまちづくりに関して積み残した課題について 令和7年第4回定例会で、私は、西新井のまちづくりについて、様々な質問をした。その時、具体的な対応策を示していただけなかったものも多くあった。それから1年近く経過し、検討が進んだものもあるのではないかと思う。そこで、積み残しとなっていた、いくつかの課題について、以下、改めて質問する。 (1) 西新井駅西口南地区市街地再開発準備組合に、東武鉄道駅舎の部分が加わったことに伴い、今後のプランの概要に関して質問したところ、区は、「再開発準備組合との協議が整ったらお示しする」と答弁している。これまで、どのような協議が行われてきたのか、また、プランを示せるのは、いつ頃になると考えているのか、併せて区の見

	4 2 番 かねだ 正
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
2 産業経済行政	解を伺う。 (2) 再開発準備組合に加わった東武鉄道の区域以外の北側の旧マンション部分に、どのような計画と見通しがあるのか、質問したところ、区は、「東武鉄道より今後の方向性が固まり次第、関係者と調整・協議を行うと聞いているので、東武鉄道と情報交換を行い、動向を注視していく」と答弁している。これまで、どのような情報交換が行われたのか、また、何か動きはなかったのか、具体的に示して欲しい。 (3) 補助第253号線の早期整備について、区は、「東京都と個別に協議を進めていく」と答弁している。これまで、どのような協議をしてきたのか。また、何か具体的な進展はあったのか、併せて伺う。 5 足立区最大の観光資源である西新井大師について 今年は、足立区最大の観光資源である西新井大師が、開創1200年を迎える記念すべき年である。令和7年第4回定例会で、どのようなイベントを開催するのか質問をしたが、まだ検討段階であった。今年は、開創1200年の年であり、様々なことが具体化している。まさに、絶好のPRの機会でもあるので、改めて、以下、質問する。 (1) 開創1200年にあたり、どのようなイベントを実施するのか、具体的に示して欲しい。 (2) 繰り返しになるが、西新井大師は足立区最大の観光資源である。私は何度も、その門前街を、行政として強いバックアップを行っていくべきと訴えてきたが、なかなか実現してこなかった。そうした中、以前、区は、「西新井大師開創1200年を契機とした商店街のフラッグ設置、イベントの実施支援を通じて、にぎわいの創出や地域経済の活性化を促していく」と答弁している。そうした支援は継続して、はじめて効果が表れるものとする。来年度以降、区は、どのような支援を行っていく考えなのか、具体的な内容について伺う。 Ⅱ 地域に開かれた学校づくりと子どもたちの健全育成について 足立区では、学校を地域に開き、地域の教育力を引き出すことで子どもたちの成長を支えるため、平成12年度から学校関係者・保護

	4 2 番 かねだ 正
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	者・地域住民による「開かれた学校づくり協議会」の設置が始まり、平成14年度には区立全小中学校に設置された。 一方、平成14年度に文部科学省が五反野小学校を「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究校」に指定し、学校理事会の設置や民間人校長の配置、全国初となる法律に基づく「学校運営協議会」の設置に伴うコミュニティ・スクール化など、先進的な取り組みが行われた。しかしながら、平成24年度末には五反野小学校が統合により閉校となった。 その後、区は、開かれた学校づくり協議会に学校運営協議会の機能を付加した「開かれた学校づくり協議会型コミュニティ・スクール」を設置することを基本方針とし、年に1校程度の設置を目指していたが、令和3年度の花保中学校を最後にコミュニティ・スクール化が進んでおらず、現在13校にとどまっている。 そのような区の状況の中、文部科学省は令和7年7月、地域学校協働活動にかかる「地域と学校の連携・協働体制構築事業補助金」の補助要件を改定し、「令和8年度当初時点で事業実施自治体において、所管の学校の40%以上でコミュニティ・スクールを導入していること」または「令和8年度当初時点で事業実施自治体において、所管の学校に令和8年度以降3年度以内にコミュニティ・スクールの導入率を40%以上にする具体的な計画を有していること」との要件を提示した。このような状況を踏まえ、以下、質問する。
3 学校運営行政	1 開かれた学校づくり協議会とコミュニティ・スクールについて (1) 改めて、「開かれた学校づくり協議会」と「コミュニティ・スクール」の違いについて、区はどのように認識し、考えているのか、伺う。 (2) 開かれた学校づくり協議会に学校運営協議会の機能を付加した「開かれた学校づくり協議会型コミュニティ・スクール」を設置したことによるメリットとデメリットについて、区はどのように考えているのか、区の見解を伺う。 (3) 私はこれまで、何度も区に、「コミュニティ・スクール」を増やすべきだと訴えてきたが、結果として増えなかった。どうして増えなかったのか、増えなかった要因について、区はどのように考えているのか、区の見解を伺う。また、要因の一つに、人選が難しいという

	4 2 番 かねだ 正
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
4 政策経営行政	話もあった。「コミュニティ・スクール」を増やしていくにあたって、区は、人選が難しいという課題をどのように解決していくつもりなのか。具体的な方法について、伺う。 (4) 区は、文部科学省が改定した「地域と学校の連携・協働体制構築事業補助金」の新たな補助要件である、「コミュニティ・スクールの導入率40%」に向けた取り組みを行う考えはあるのか、伺う (5) 仮に、「コミュニティ・スクール」の導入率が40%を超えた場合、その後も導入を促進していく考えはあるのか、区の見解を伺う。 (6) 「コミュニティ・スクール」を進めていくなかで、「開かれた学校づくり協議会」の今後についてどのように考えているのか。今後の「開かれた学校づくり協議会」のあり方について、区の見解を伺う。
	2 生涯学習振興公社とあだち放課後子ども教室について あだち放課後子ども教室は、地域住民との交流を通じて、子どもたちの健全な育成を支える極めて重要な基盤であり、あだち放課後子ども教室を担う生涯学習振興公社の今後の在り方は、子どもたちの未来に大きくかかわる問題である。 生涯学習振興公社は、平成12年の設立以来、地域の生涯学習支援のみならず、子どもたちの安全・安心な居場所づくりに至るまで、区民生活の充実に大きく貢献してきた。とりわけ公社が担ってきた「あだち放課後子ども教室事業」は、単なる預かりの場にとどまらず、子どもたちの健全な育成を支える極めて重要な基盤であると考えている。 公社固有職員の方々は、現場で培った長年の経験と実績、そして熱意をもって、細やかな配慮と丁寧なアプローチを行ってこられ、公社の強みである現場密着の対応力と積み重ねられたノウハウは、区直営や画一的な外部委託では容易に代替できない貴重な財産であり、区民からも高く評価されているところである。 しかしながら、公社においては長年にわたり固有職員の退職不補充の方針が継続された結果、職員の平均年齢は60歳に達し、今後数年間で更なる退職者が生じることが想定されている。こうした組織の弱体化や事業環境の変化を受け、区として公社の抜本的な在り方検討を開始するとのことだが、公社がこれまで果たしてきた役割、特に子どもたちの放課後の安全を守り育んできた実績を鑑みれば、慎重かつ将来を見据えた議論が不可欠である。公社のこれまでの実績を高く評価

	4 2 番 かねだ 正
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	し、積み上げられてきた質の高い事業を継続していくべきとの立場から、以下、質問する。 （１）今後の在り方検討の議論の方向性について、区は今後、公社の存続を含めた抜本的な検討を行うとしているが、検討における基本的な姿勢と議論の方向性について、区の見解を伺う。 （２）あだち放課後子ども教室は、子どもたちの安全な居場所確保において極めて重要な役割を果たしている。一部で学童保育室との一体化に伴う外部委託化の動きが見られるが、これまで提供してきた質の高いプログラムや地域とのつながりを守り、放課後子ども教室事業を今後も続けていく考えはあるのか、区の見解を伺う。 （３）公社の在り方については、従来、令和１０年度を目途に方向性を示すとされていたが、固有職員の退職動向や現場の状況に鑑みれば、現場の不透明感を払拭し、体制を整えるためにも、よりスピーディーな決断が求められる。令和９年度中に取りまとめる検討スケジュールが示されているが、速やかに結論を出す考えはあるのか、区の見解を伺う。